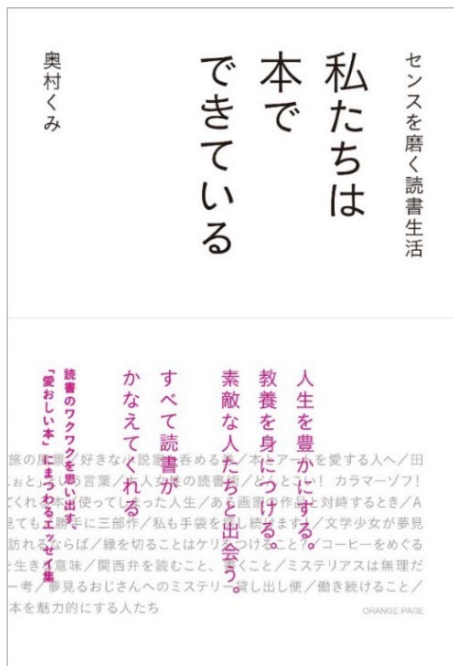


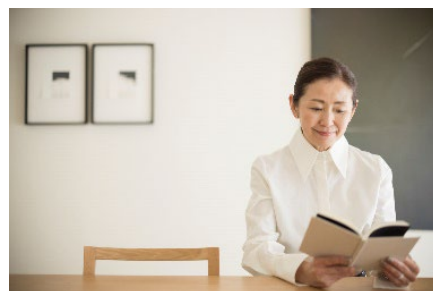
アートアドバイザー奥村くみ最新刊は「愛おしい本」にまつわるエッセイ集

『私たちは本でできている』6/7刊行

株式会社オレンジページ(東京都港区)は、アートアドバイザーとして活躍する奥村くみさんの5年ぶりとなる新刊『センスを磨く読書生活 私たちは本でできている』を6月7日(金)に刊行します。Instagramに時折投稿する本の紹介が人気の奥村さんによる、初の読書エッセイ集です。



『センスを磨く読書生活 私たちは本でできている』(帯あり)



奥村くみさん

元文学少女、無類の本好きの奥村くみさんが綴る、大人の読書エッセイ

アートアドバイザーとしてアートの魅力を発信している奥村くみさん。実は本への愛も深く、これまでInstagramを中心に自身が好きな本を紹介してきました。「人生の岐路に立ったとき、いつも私を支えてくれたのは本の存在。思えば物心ついてから本と離れたことはありません」と語る著者の初の読書エッセイには、あらずじはほとんど書かれず、その本の「余韻」のようなものが綴られています。「アートの展覧会同様に、人にはそれぞれ感じ方がある」と考える奥村さんならではの文章は、不思議な魅力にあふれ、ページをめくるたびに「読書のワクワク感」を思い出させてくれます。日々の忙しさと本が読めなくなったという方、年を重ねるにつれ本を読むことをおっくうに感じてきた方にこそ、ぜひ手に取ってほしい、大人の読書エッセイです。

段々と字を追う気力が衰え、老眼も進むばかり。私の周りでもそんな方が多くおられます。昔に比べて本を読むのがしんどくなったと。もちろん私もそのひとり。でも本を読みたい、魅力的な本に出会いたい、その気持ちは今も衰えることはないのです。この本がきっかけとなり、若い頃のように新鮮な気持ちで本に向き合ってみようか、などと感じてくださる方がおられたら、これほど幸せなことはありません。 (奥村くみ「はじめに」より)

奥村くみ

アートアドバイザー。インテリアコーディネーターとして長年数多くの個人宅、医院、モデルハウスなどを手掛ける。2004年よりアートのある暮らしの豊かさを多方面から提案。2014年より毎年、大阪・堂島で開催されているアートフェア「ART NAKANOSHIMA」のディレクター。2021年に奈良・明日香にプライベートビューイングルーム「quo/to こおと」を開設。無類の本好きで、自身のInstagramに時折投稿する本紹介の文章も人気。

HP: www.allier.jp Instagram: @allierart93 note: @noartnolife93



左:「書斎にある本棚。私をつくってくれた本のごく一部が並んでいる。」

中:「バッグが人気の、某ブランドの赤い虎のブックマーク。お茶目な雰囲気になまされる。」

右:「続きが気になるミステリーはキッチンにも持ち込み、煮込み料理の待ち時間に読書継続。」

【目次】

はじめに/本が思い出させてくれる旅の風景/好きな小説家と呑める券/本とアートを愛する人へ/ 田舎に旗を立てること/「こおと」という言葉/大人女性の読書術/どんとこい！ カラマーゾフ！/ごはんづくりを応援してくれる本/使ってしまった人生/ある画家の作品と対峙するとき/AIロボットとの生活を夢見ても/勝手に三部作/私も手袋を探し続けます！/文学少女が夢見た本を出すこと/奈良を訪れるならば/縁を切ることはケリをつけること？/コーヒーをめぐる風景/作家と同じ時代を生きる意味/関西弁を読むこと、書くこと/ミステリアスは無理だけど/お宿のライブラリー考/夢見るおじさんへのミステリー貸し出し便/働き続けること/アート探検のお供には/本を魅力的にする人たち/おわりに

※本書で取り上げている作者(抜粋)

村上春樹、ベルンハルト・シュリンク、三浦しをん、白洲正子、高田郁、カズオ・イシグロ、向田邦子、志賀直哉、西加奈子、メイソン・カーリー、くどうれいん、藤原新也、木皿泉、幅允孝、島田潤一郎 etc.

奥村くみ 『センスを磨く読書生活 私たちは本でできている』

2024年6月7日(金)刊行 定価 1760円(税込)

四六版、アジロ綴じ、144ページ <https://www.orangepage.net/books/1799>

<このリリースに関するお問い合わせ先>

〒108-0073 東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル 16F 株式会社オレンジページ

総務部 広報担当: 遠藤 press@orangepage.co.jp

【2/2】